

理解できるよう指導します。ここで仕組みを理解しておけば、その後の複雑な割り算でも困ることはなくなるし、必要に応じて戻し算も使えるようになります。そろばん教室によっては戻し算を積極的に取り入れている所もあるようですが、当教室ではこのような理由から基本的に割り算は<確商>で指導しています。繰り返しますが、そろばんで出来ても、暗算では出来ない、あるいは出来たとしても、もの凄く時間がかかってしまうという事態を避けるためです。<確商>は学年が小さいと習い始めの頃は難しい場合もありますが、丁寧に指導していけば、誰でも必ず出来るようになりますのでご安心ください。習い始めは戸惑うことの多い割り算ですが、上級者になるほど、掛け算・割り算・見取り算のなかでは割り算が最も高得点を取りやすい傾向にあります。

それから6級の割り算ではもう一つの壁、9立商(きゅうりっしょう)という方法も新登場しますが、これについてはまた別の機会にお話ししますね。ちなみに9立商とは $5,488 \div 56$ のように一瞬んっ?となるような問題を解くときに使う方法です。



クスツと笑ってしまう質問!



みなさんはNHKで放送している「子ども科学電話相談」というラジオ番組をご存じですか?

就学前の小さな子から中学生までの子どもたちが、昆虫、天文、植物、動物、科学などに関する本当にユニークな疑問をライブ電話で伝えてくれます。これに対して各ジャンルの専門家の先生たちが四苦八苦しながらも言葉を選びつつ一生懸命に答えてくれる番組なのですが、空気を読まないというか、遠慮のない子どもたちと先生たちとのやり取りがとても微笑ましくて、個人的には長きにわたってこの番組のファンです(最近はインターネットで気軽に聴くことができます)。

うーん



先日、その番組の中で面白いやり取りがありましたので、ご紹介しますね。

質問者は新潟県の小学2年生のハナちゃん。

「鼻をつまみながら九九の6の段を言うと上手く言えるようになりました。なんでですか?」

何という自由奔放な質問!大人には絶対に湧いてこない疑問です。この質問を聞いただけで思わず笑ってしまいましたが、当然、ハナちゃんは全くふざけている感じではなく、いたって真面目な口調です。

脳科学の専門家の先生とハナちゃんとのやり取りを抜粋すると以下のような感じ。

◇(ハナちゃんは)何をきっかけに鼻をつまんだのかは覚えていないけど、たまたまそうしたらスムーズに九九が言えるようになった。

◇(先生から)もしも九九を言いながら途中で間違えてしまうかも?と一瞬でも不安がよぎると、そのことがアタマの中で邪魔をして本当に間違ってしまうことはあるかもしれない。

◇鼻をつまむと、つまんでいること自体に気持ちが行ってしまうから間違えてしまうかも?とかの余計なことを考えなくなる。例えば耳をつまむとか、その場で足を踏んでも良いかもしれない。

◇単純な計算をする場合、例えば音楽を聴きながらのほうがうまく出来ることがある。一般的に脳のメモに余計なものが浮かばない方が間違えにくいので、あえて余計なことをしてアタマのメモを使ってしまった方が良いかもしれない。

大まかに抜粋すると大体こんな感じのやりとりでした。脳とか心とか意識とかの細かいところは、まだまだ分からないことばかりですが、それでも先生は分かりやすい言葉を使って丁寧に答えており好感を持ちました。

今回のお話はもしかすると大人でも学習についてのヒントになるのかも知れません。そろばんの場合は指で珠を弾きながら鼻をつまむことは出来ませんが、暗算やフラッシュ暗算なら鼻をつまんでも出来るかも?



GW 期間中の授業はカレンダー通りとなります(祝日は休み、それ以外は授業を行います)。



4 月		5 月					
29日	30日	1日	2日	3日	4日	5日	6日
金	土	日	月	火	水	木	金
休み	○	休み	○	休み			○